



子ども大学かわごえ

CUK だより

第 73 号 NO.160625

平成 28 年 7 月 31 日

子ども大学かわごえ 第 9 期 入学式

日時 : 2016 年 6 月 25 日 13:00~13:30

場所 : 東京国際大学 川越キャンパス

新入生 170 人を迎えて第 9 期入学式が行われました。遠藤克弥子ども大学学長の歓迎のあいさつの後、来賓からお祝いの言葉がありました。川越市副市長・坂東博之氏は「色々なことに疑問や興味を持ち、自分で学習する努力をしてください」、鶴ヶ島市教育長・浅子藤郎氏は「子ども大学かわごえでしっかり学習して、未来に活動できる人物になってください」、尚美学園大学理事長・学長の久保公人氏は「みなさん、好奇心を持ち続けて有意義な人生を送るようにしてください」と述べました。最後に 6 年生の大野翔君が学生を代表して新入生歓迎のあいさつをしました。

以上の入学式に引き続き、2 時から新学期初めての講義が行われました。

第 9 期 第 1 回 授業

日時 : 2016 年 6 月 25 日(土) 14:00~16:00

場所 : 東京国際大学 川越キャンパス

テーマ : 銀河鉄道 999 ミッション 2016 私たちの宇宙「いのち」への旅立ち

講師 : 漫画家 松本零士氏

皆さんこんにちは、漫画家の松本零士です。私は皆さんと同じくらいのころから漫画を描いていました。「火星悪魔」「四次元世界」「透明人間」などです。

さて、画像を見てください。これはどこだと思いますか？

学生「東京？」

先生「違います」

学生「どこかの湖に見えます」

先生「青いところは海です。これはおそろしい光景です。溶岩流が構造物の上を横断してしまった風景。これはどこだと思います？ びっくりしないで下さいよ！ これは地球ではありません。金星の表面です。金星の表面にこういう文明が残っている。表面温度 120 から 130 度、硫酸の雨が荒れ狂う炭酸ガスの大気。しかし明らかに知的生命体の跡があります。

これは何だと思います？」(化石を見せる)

学生「三葉虫」

先生「その通り、三葉虫の化石。3億年前です。この写真はそれよりはるか前の写真。これが地球の未来の姿、我々の住んでいる所はこうなるわけです。これはNASAの写真です。一般には公開されていません。この写真を手に入れたのは2、3年前。子どもの頃から未来の地球を守りたいという思いがあって描いてきました。楽しんで描いているうちにこの写真を見てぞっとしました。みなさんこれは何だと思えますか」(石を出す)

学生「石」

先生「誰か握ってみてくれる？」(挙手した子から)

学生「重い」

先生「これは石ですよ。こちに置いて。これは隕石だよ」

学生「重い！ものすごく重いです」

先生「これが要するに地球外のどこかの星の不純物のない鉄の塊です。私が子どもの頃、山の中腹に住んでいました。戦争中、パイロットだった父親が東南アジアで行方不明になり、戦争が終わって2年たって帰ってきて、山で炭焼きをして暮らすはめになりました。その時に大型の隕石が落ちてくるのを見ました。2個も見ました。ギネスブックをみたら2個続けて目撃している人が何人かいて、私は9番目でした。でも報告していないので私の名前は載っていません。落ちた所を探しましたが見つかりませんでした。

1945年8月15日、小学校2年生、7歳のときに太平洋戦争が終わりました。家に帰ったら、ばあちゃんが刀をもって座っていて「敵が来たらこれで刺し違えて死ぬ。お前も侍の子じゃけん覚悟せい」と言われて、チャンバラするのかと思いました。しかし敵が来なくてよかった。そんな体験をしたのが皆さんよりちょっと若い時。父親は戦後、日本へ帰ってきて、路上で八百屋をやりました。極貧で食べ物がない。ごはんは1年に1回くらい。あとは粉ミルクとか、おかゆ、豆、イモ…大きくなれなかった。今は、みんな大きくなっているね。肉とかたんぱく質をたくさん食べられるからね。日本人は本当は小さい民族じゃなかった。昔の武将の鎧(よろい)を着ると大きくてガボガボです。肉食を禁じたので小さくなった。また戦争に負けたりしたので我々の世代は小さい。

私は2年生くらいのとき、空を見るとオリオンがきれいで、父に「火星人はおるか？」と聞きました。「おるかもしれん、おらんかもしれん」。それで「火星悪魔」という作品を最初に描きました。次が「透明人間」。

ところで数学の好きな子は？(たくさんの子が挙手)。国語の好きな子？(挙手さっきより少し減る)。理科の好きな子(たくさん挙手)。自分の好きなこと、自分が何をするか、自分の願いをかけて頑張ってください。人は何のために生まれてくるのか、目的意識をしっかり持つことが大切です。

私は面白いマンガばかり描こうと思いました。新聞の連載を始めたのは高校生の時。本当は大学の機械工学部に行って宇宙船を作りたいともありました。今頃火星にいる予定でした。私の弟は工学博士になりロケットを作っています。私の夢は弟が果たしてくれた。あるとき電話があって、宇宙線のロック装置を13個描いて渡した。1年くらい忘れていたが、宇宙船のロック装置になっていました。

この中に宇宙戦艦ヤマト見たことある人？ ヤマトの舳先がこういう風にとがっている。バルバス・バウ(球状艦首)、昔の実際のヤマトも流体力学で少しとがっていました。あれをもっと極端にしたのです。今、世界中の船がそうになっています。特許とっておけば、遊んで暮らせたのに、



そんなことを考えもしなかった。想像力というか、少年の思いはあとで誰かが実現していくものです」



質問に入りたいと思います。質問ある方、手を挙げてください。

学生「いつから宇宙が好きになったのですか」

先生「小学生になる前、幼稚園からオリオン座など見て、あそこには人がいるのかとか、そんなことを考えていました」

学生「好きな星は何ですか」

先生「火星。今頃、火星にいる予定でした。私はいろんな飛行機の操縦をできます。でも今は免許がないからできません。いろいろな体験をしました。体験をしないと漫画を描けない。もう一人、質問して休憩にします」

学生「何で漫画家になろうとしたのですか」

先生「自分の未来の夢を描きたかった。未来はこうなる、自分の想像を描きたかった。宇宙人がいたらこうだよと。

皆さんにとってはいま午後3時ですが、私にとって今から朝ごはんの時間。夜中12時が晩御飯。徹夜に強い人間じゃないと、この仕事は成り立たない。私はこの間、柔道、剣道もやっています。皆さんの世代は射撃の許可は下りないが、私はアメリカで銃も撃っています。

自分で見たものを描くのと写真で見たのとは違う。自分で見ていると描くときボリュームミー、立体的に見える。写真だと平面だけ。絵を見慣れた人間は絵を見ただけで現場に行っているか、写真で描いたかわかります。

小学生の頃から宇宙にあこがれていました。悩んだこともあります。高校の時、画家になるか、漫画家になるか、工学部に行ってロケットを作るかと悩みました。

東京の遊覧船で「ヒミコ」というのがあります。これをデザインしました。スタビライザー（揺れの安定装置）が安定していて全然揺れません。行ったらぜひ乗ってください。

今、帆船も作っています。7センチくらいある強化ガラスを使っています。外国の人が来て隅田川を渡る船に乗って、「これが日本か」「この国に核弾頭がないわけないよな」と言った。日本の科学技術は極めて高度です。この国を怒らせると怖い、それくらい日本は科学技術によって守られているのです。



時計のデザインをしました。オメガの限定モデル「ムーン・トゥ・ザ・マーズ」。若田光一さん（宇宙飛行士）に限定モデルのオメガの時計を贈りました。女性宇宙飛行士の山崎直子さんにはメーテルモデルをあげた。若田さんの乗った宇宙船から携帯電話が入りました。「今どこ」って聞いたら「中南米の上空あたり」「まだ日本列島は見えない」。携帯電話で直接話すと、タイムラグが起きません。

先生は「紙とマジック持ってきて」と頼んで、銀河鉄道999のメーテルとキャプテンハーロックの絵、次いで自宅で飼っている2匹の猫と犬（とらじまのミーと巻き毛のロン）の絵を描きました。「フランス、アメリカと一緒にやってハーロックをやります。宇宙をリアルに描く、それが大事なんだ。キャプテンハーロックは『どくろ』の旗を掲げた。この『どくろ』は、西洋の騎士団の「骨になっても自分は戦う」ということです。己の信念を貫く、自分の信念のもとに生きるということです。絵を描くということはあらゆる物を描かなくてはいけない。恐竜だって、星が

好きな子はたいてい恐竜も好き。ゴジラのデザインも私がやります。

私はいま 78 歳です。私と同じ年生まれの友達は 60 歳で亡くなってしまった。全然運動していなかった。だから皆さんしっかり運動してください。肉体は自分の意志を支える力になります。あなたは 11 歳？ 子どもの時に運動していないといけない。運動不足は命を縮めるよ。



皆さんに漫画家の世界を教えましょう
漫画家は自由業だから、仕事の依頼主に喫茶店に呼ばれて、お前の連載は面白くないから、来月で終わり、そう言われて、いきなり無職ということもある。アニメは昔は手がきでした。今は CG でできる。漫画やアニメには国境がありません。だからこそ、みんなお互いに敬意を払わないと成り立たない。思想、宗教、民族の違いがあっても、それを傷つけるようなことはあってはならない。全員、地球人として一体になって、がんばらなくては。

最後に質問をお受けします

学生「隕石は何円したのですか？」

先生「値段？ 覚えてないな。そんなに高くなかった。今は売っていない」

学生「先生が一番行きたいところはどこですか？」

先生「火星に行きたい」

学生「漫画の 999 は、いつ完結するのですか」

先生「999、エメラルダス、ハーロックは一つの物語なのです。それを 3 つに分けて描いています。これを全部描いたら自分は死にそうな気がするので、完結しません。完結したらあの世に行くのだと思ってください」

学生「火星に行けたら何をしたいのですか」

先生「生物が何かいたと思うので、足跡をさぐりたいね」

学生「漫画家になった気持はどうですか」

先生「このために自分がいたのだと感謝しています」

学生「火星以外に行きたいところは」

先生「金星に行きたい。この写真の遺跡を探りたいね」

学生「物語を作っているとき、工夫している所は」

先生「物語を作ったら、何のために描くか目的意識を持つことだね。地球人が今後よその星に行き、地球を温暖化から守る。自然環境を守るというのを目的に精進していきたいです。だから皆さんも健康に注意して、大学出るまでしっかり食べて、毎日じゃなくていいから運動して、元気にやってください。そして、お父さんお母さんを大事に！」

子ども大学かわごえ学長 遠藤克弥

事務局

NPO 法人子ども大学かわごえ

〒350-1109 川崎市霞ヶ関北 3-12-6

霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991 (事務局直通)

FAX 049-233-1640F

E_MAIL info@cuk.or.jp